

社交ダンスで広がる交流の輪

◎鬼北町ダンスパーティー

華やかなダンスに拍手を送る参加者



「鬼北町ダンスパーティー」は2月4日、鬼北総合公園の多目的室で開催されました。会場には、県内外から数多くの社交ダンス愛好者が集結。フリーダンスタイムでは、流れる音楽に合わせて、それぞれが思い思いにダンスを楽しみながら、愛好者同士の交流を深めていました。

また、鬼北スポーツダンスサークル(会長・青木武司)の会員らによるデモンストレーションも披露。華やかな衣装に身を包み、優雅に、情熱的に、そして時に華やかなステップで踊る会員らの姿に、参加した人々たちから、盛大な拍手が送られていました。

劇で伝える諦めないことの大切さ

◎劇団バク来園

「うさぎとかめ」を熱演



2月1日、近永保育園で「劇団バク」による人形劇が行われました。

全国各地で子どもたちに人形劇を行っている「劇団バク」。当劇団の人形劇は、劇団員が録音されたセリフや音楽に合わせて表現する「マスクプレイ・オペレッタ」と呼ばれるものです。この日は「うさぎとかめ」の演目が披露されました。

劇が始まると、身を乗り出して見る子もいるほど、その世界観に引き込まれる子どもたち。劇では、「油断してはならないこと」や、「諦めずに努力することの大切さ」を、子どもたちに伝えていきました。

野球が私に教えてくれたこと

◎人権を考える集い

来場者に優しく語りかける佐藤氏



「人権を考える集い」は2月10日、広見体育センターで開催されました。

今年の講師は、元プロ野球選手で、現在、元気配達人として活動しているパンチ佐藤氏。今回は、「元気配達人からのメッセージ」と題して、講演が行われました。

ユーモア溢れる語り口調で、自身が今まで歩んできた人生を振り返る佐藤さん。「野球と出会って、我慢すること、コツコツ努力することや、最後まで諦めない気持ちを学んだ」と、熱く話していました。来場者たちは終始笑みを浮かべながら、佐藤さんの話に耳を傾けていました。

伊予と土佐をつないだ偉人を学ぶ

◎日吉小中学校郷土学「紙漉き新之丞講演会」

新之丞の紙芝居を披露する尾崎さん



2月5日、日吉中学校図書室で、郷土学の一環として、日吉小学校5・6年生と日吉中学校1・2年生を対象に、「紙漉き新之丞の講演会」が行われました。

土佐和紙の祖として知られる新之丞。日吉地区の日向谷出身である新之丞は、現在の高知県いの町に、土佐七色紙を漉き出す技術を伝えたといわれています。

講演会では、新之丞祭実行委員会の尾崎敏明さんが、紙芝居で新之丞の生涯を紹介。また、子どもたちは実際に厚さ0.3ミリメートルの土佐典具帖紙に触れ、その質の高さを体感するとともに、新之丞の偉大さを学んでいきました。